

2008年度博士論文

主査教授 江藤 直純

副査教授 平山 佳須美

「在宅高齢者の自己実現尺度の開発の研究」

—自己実現尺度開発と自己実現概念の操作的定義—

Development of the Self-Actualization Scale

for the Elderly Living at Home

ルーテル学院大学大学院総合人間学研究科

社会福祉学専攻博士後期課程

04G-D001

清重哲男

目 次

テーマ：「在宅高齢者の自己実現尺度の開発の研究」

はじめに	1
序章	4
第1節	自己実現を研究のテーマとして取り上げた背景	
第2節	自己実現研究の目的	
第1章	自己実現の構成概念の基本原則 9
第1節	カントの実践哲学について 10
第1項	カントの実践哲学と自己実現の概念	
第2項	カント哲学より取り上げた概念	
第2節	ニーチェの実存主義哲学について 14
第1項	ニーチェの実存主義哲学と自己実現の概念	
第2項	ニーチェの実存主義哲学より取り上げた概念	
第3節	マスローの心理学について 19
第1項	マスローの心理学と自己実現の概念	
第2項	マスローの心理学より取り上げた概念	
第4節	マックス・シェーラーの価値倫理学 23
第1項	シェーラーの価値倫理学と自己実現の概念	
第2項	シェーラーの価値倫理学取り上げた概念より	
第2章	生活の質（QOL）に関する先行研究 33
第1節	サクセスフル・エイジングの理論 33
第2節	QOL尺度の先行研究 35
第1項	生活の質（QOL）の理論	
第2項	生活の質（QOL）尺度の先行研究	
第2項の1	包括的健康関連 QOL 尺度 Short Form36 (SF-36)	
第2項の2	WHO/QOL 26 尺度について	
第2項の3	PGC モラール（M o r a l e）スケール	

第2項の4	カッター (Kutner, B.) のモラール・スケール		
第2項の5	R D Q日本語版マニュアルについて		
第2項の6	諸外国のQ O L尺度の先行研究		
第3項	最近のわが国の高齢者の生活の質(Q O L)尺度の先行研究		
第3節	生きがいと自己決定の先行研究	68
第1項	「生きがい」について		
第2項	「自己決定」について		
第3章	予備尺度の作成と自己実現の概念定義	75
第1節	自己実現の概念定義	75
第2節	自己実現の構成概念の操作的な仮定義	76
第1項	自己実現の構成概念の操作的仮定義の手順		
第2項	自己実現の構成概念の大項目, 中項目, 小項目		
第3節	予備尺度の完成	80
第1項	大項目「他者との関係性」について		
第2項	大項目「個人の生活」について		
第4節	調査票に採用する質問項目原案文	100
第4章	プリテストの準備と実施	103
第1節	調査項目の選定準備	103
第2節	自己実現尺度構成の予測	104
第3節	質問項目の抽出	106
第4節	プリテスト調査票の作成	108
第5節	プリテストの方法	109
第6節	基本属性の調査結果	100
第7節	質問項目の削減方法	111
第1項	選ワーディング検討会による項目削除		
第2項	選択された32質問項目		
第8節	信頼性分析による項目選定 55 113

第 1 項	選定のための項目分析		
第 2 項	25 項目からの項目分析		
第 9 節	因子分析による項目選定の確認	116
第 5 章	本調査の実施	119
第 1 節	本調査の実施の方法	119
第 2 節	本調査に使用した自己実現質問項目	121
第 3 節	本調査用基本属性の項目選定	123
第 4 節	サンプルの基本属性	125
第 1 項	16 基本属性の度数分布の分布		
第 2 項	基本属性の度数分布の分析結果の考察		
第 5 節	本調査のデータによる項目分布	131
第 6 節	全項目の度数分布とヒストグラム	132
第 7 節	信頼性分析による自己実現項目の選定	137
第 8 節	因子分析による項目選定	145
第 9 節	因子分析による項目選定の最終確認	150
第 10 節	項目選定作業の総括	157
第 6 章	自己実現尺度の因子分析による因子構造の選定	163
第 1 節	自己実現構成概念の仮定義	163
第 2 節	因子抽出の方法	164
第 1 項	主成分分析を採用した理由		
第 2 項	因子抽出の方法について		
第 3 項	直行回転を採用した理由について		
第 3 節	因子数「7」の因子分析	165
第 1 項	7 因子モデルの因子寄与率及び因子負荷量		
第 2 項	7 因子モデルの評価		
第 4 節	因子数「6」の因子分析	168
第 1 項	6 因子モデルの因子寄与率及び因子負荷量		

第 2 項	6 因子モデルの評価		
第 5 節	因子数「5」の因子分析	170
第 1 項	5 因子モデルの因子寄与率及び因子負荷量		
第 2 項	5 因子モデルの評価		
第 6 節	因子数「4」の因子分析	172
第 1 項	4 因子モデルの因子寄与率及び因子負荷量		
第 2 項	4 因子モデルの評価		
第 7 節	5 因子モデルの潜在因子への命名	175
第 1 項	第 1 因子への命名		
第 2 項	第 2 因子への命名		
第 3 項	第 3 因子への命名		
第 4 項	第 4 因子への命名		
第 5 項	第 5 因子への命名		
第 7 章	基本属性が自己実現トータルスコアと下位尺度に及ぼす影響		
第 1 節	自己実現トータルスコアと下位尺度スコアの計算	183
第 2 節	自己実現トータルスコアの分布	186
第 3 節	基本属性が自己実現トータルスコアに及ぼす影響	187
第 1 項	基本属性の項目名と内容		
第 2 項	自己実現トータルスコアと基本属性の一元配置の分散分析		
第 3 項	自己実現トータルスコアと基本属性の多元配置分散分析		
第 4 項	一元配置分散分析と多元配置分散分析の結果の比較		
第 4 節	下位尺度に及ぼす基本属性の影響	201
第 1 項	一元配置分散分析による下位尺度に及ぼす基本属性の影響		
第 2 項	多元配置分散分析による基本属性の下位尺度への影響		
第 5 節	分散分析による基本属性の影響力の分析の総合的考察	204
		208
		208

第8章	自己実現スケールの確認的因子分析による検証	211
第1節	1次因子モデルの確認的因子分析		
第2節	2次の確認的因子分析		
第1項	2次因子の確認的因子分析の潜在変数と観測変数		
第2項	2次因子の仮設モデルの確認的因子分析		
第9章	要約と結論	217
第1節	自己実現概念の構築	217
第1項	カント他4人の思想家の理念と自己実現の基礎理念		
第2項	自己実現の概念的定義		
第3項	構成概念の操作的定義		
第2節	自己実現尺度（SAT-17）の開発	220
第1項	自己実現尺度開発のプロセス		
第1項の1	キーワードプールの作成		
第1項の2	調査項目76原案文のステートメント		
第1項の3	プリテスト用50項目の作成		
第1項の4	本尺度24項目の観測変数の選定と本調査		
第2項	尺度の検証		
第2項の1	確認的因子分析による検証		
第2項の1	自己実現尺度の信頼性		
第3項	尺度の特性		
第3節	結論	228
第1項	自己実現尺度（SAT-17）の構成		
第2項	自己実現の操作的定義の確定		
第4節	残された課題	229
・	謝辞	230
・	巻末資料		

